

(4) 赤潮発生状況調査

予算

運営費交付金

結果の概要

2015年の赤潮の発生件数は15件で、昨年(18件)より3件減少した。2015年は例年と同様に珪藻類が主体であったが、*Heterosigma akashiwo*が3件と近年では多く確認された。渦鞭毛藻類で赤潮として確認されたのは*Prorocentrum minimum*のみであった。有害種は、前述の*Heterosigma akashiwo*が5月下旬と6月上旬に出現し、それぞれ最高33,200、12,900cells/mlの密度で赤潮を形成したほか、8月下旬にも最高9,670cells/mlで赤潮として確認された。*Chattonella*属(*C. antiqua*, *C. marina*)は7月下旬に初見され、低密度ながら9月中旬まで出現した(最高4細胞/ml)。また、*Cochlodinium polykrikoides*が8月上旬に最高8cells/mlの密度で確認された。これらの情報は大阪湾赤潮速報として大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ(<http://www.kannosuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/akashio/index.html>)で公表した。

調査方法

1. 調査定点

大阪湾全域20定点(浅海定線調査に準じる)、もしくは東部海域14定点(水質監視調査に準じる)

2. 調査期間と実施日

2015年1月~12月について、貝毒警戒時期である2月~4月、赤潮多発期である5~9月は概ね週1回、それ以外の月は月2回

3. 調査項目

水色、透明度、プランクトン細胞数等

4. 調査船

漁業調査船「おおさか」(19トン、680kw×2基)

調査結果

表1、2、3、4のとおり。

担当者

山本圭吾

表 1 赤潮発生状況調査 発生継続日数別赤潮発生件数結果

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	9	3	2	1	15
うち漁業被害を伴った件数	0	0	0	0	0

表 2 赤潮発生状況調査 月別赤潮発生確認件数結果

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	1	1	1	2	2	2	1	3	2	1	0	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち前月より継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)月にまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表 3 赤潮発生状況調査 赤潮構成種別発生件数結果

No.	赤潮構成種名	発生件数 (件)
1	<i>Skeletonema</i> spp.	8
2	<i>Heterosigma akashiwo</i>	3
3	<i>Chaetoceros</i> spp.	2
3	<i>Thalassiosira</i> spp.	2
5	<i>Leptocylindrus danicus</i> .	1
5	<i>Prorocentrum minimum</i>	1
7		1
8		
9		
計		18

(注 1) 最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注 2) 複合赤潮の構成種はすべて計数した。

表 4 赤潮発生状況調査 赤潮による被害発生状況結果

整理 番号	被害 時期	原因種	魚種	被害尾数	被害金額	最高細胞密度 (cells/ml)
		被害なし				